

■ご挨拶

理事就任のご挨拶

日本風力発電協会 理事 小西 暁
株式会社シーテック 再生可能エネルギー事業本部 風力発電部長



はじめに

このたび、日本風力発電協会の理事を拝命いたしました。小西でございます、名前は“ぎょう”と読みます。風力発電の世界はまだ3年目の駆け出しですが、みなさまのお役にたてるよう努めてまいりますので、何卒よろしく願いいたします。

自己紹介など

平成23年に、現在の職場へ転勤し日本風力発電協会にも参加させていただくようになりました。その後、弊社の組織も“風力発電事業部”から“再生可能エネルギー事業部”に、さらに“再生可能エネルギー事業本部”に改め太陽光発電事業などにも事業範囲を広げているところです。

それ以前は中部電力で主に電力流通設備の計画、建設、保守の仕事に携わってきました。なかでも特に、大規模送電線の建設の仕事に多く関わってきました。

学生時代の専攻は電気工学、高電圧工学
趣味は 黒鯛釣り、スキー、ゴルフ
遊んでばかりいるわけではありませんが、デスクワークよりは身体を動かすことが好きです。

三重県青山高原での風力発電

シーテックの風力開発は平成13年に三重県で第三セクター方式の風力発電会社“青山高原ウインドファーム(AWF)”へ出資したのを皮切りに、自社のサイトとして平成15年から同県の青山高原周辺で開発を進め、平成18年にウインドパーク美里、平成22年にウインドパーク笠取を運転開始しています。さらに現在AWFが風車40基の増設工事を実施中です。

青山高原の主峰「笠取山標高(842m)」は若狭から琵琶湖を経て伊勢湾に抜ける“風の通りみち”であり地名の由来も“笠が取れるほど強い風が吹くところ”から来ています。

春はツツジ、秋にはススキなど、四季折々の景観が人々を魅了します。一度訪れてみてください。

風車の事故について

昨年4月に発生しましたウインドパーク笠取発電所19号機のナセル脱落事故につきましては、みなさまにご迷惑とご心配をお掛けしましたことを、心からお詫び申し上げます。

事故の原因究明と再発防止対策の検討については、社外有識者で構成される事故調査委員会を組織し、取り組んでまいりました。

調査結果の報告後、地域の皆さまに事故原因、再発防止対策をご説明しご理解をいただき、運転を再開させていただいております。

この間ご指導、ご理解をいただいた経済産業省、三重県、津市、伊賀市、事故調査委員会の皆さま、並びに地元地域のみなさまに厚くお礼を申し上げたいと思います。

今回の事故で得られた知見を十分に踏まえ、安全確保を第一に、風力発電所の運転に努めてまいりますと同時に、風車の安全にかかわる情報を積極的にJWPAのみなさまに発信していきたいと考えています。

式年遷宮

昨年、我々が風力事業を展開している三重県では、伊勢神宮で20年に一度社殿を立替え、御装束や御神宝を新調して神様にお遷り願う「式年遷宮」が行われました。1300年前から途切れることなく続けられてきた神事で、宮大工のみならず様々な匠の技の伝承の機会になっています。昨年の参拝者数は過去最高をさらに500万人ほど上回る1400万人にのぼったそうです。機会があればぜひご参拝下さい。

遷宮が20年に一度というのは匠の技の継承を確実にするための周期だともいわれています。私たちも風力発電の技術をしっかり継承していけるようJWPAのみなさんと共に努力していきたいと思っています。